

3 これからの学校教育において求められる児童生徒の資質・能力に関する研究
研究代表者 山根 徹夫（次長）

①研究の趣旨，ねらい

社会の変化や学校教育のおかれた環境の急速な変化の中で、これからの学校教育で育成すべき資質や能力としてどのようなものが必要とされるか、その基本的な方向性について検討すると同時に、その必要性を裏付ける根拠や方法としてどのようなものが考えられるか。これらの点について明らかにすることにより、今後における教育政策立案のための基礎的な資料を得ることをねらいとする。

②研究成果の概要

- 我が国の学校教育において求められてきた資質・能力像の変遷とその背景・要因等の把握するため、昭和22年から平成15年までの教育課程審議会答申、学習指導要領、指導要録を整理した。
- 学校教育において育成すべき児童生徒の資質能力に関して、14カ国の現状を分析し、報告書としてまとめるとともに、関連資料等を翻訳し、研究資料としてまとめた。
- OECDのDeCeCoが提唱したキー・コンピテンシーは、知識や技能を活用する力の育成を中心としたものであり、本研究が目指した目的に近いものであることが確認できた。
- 学校教育で育成すべき児童生徒の資質・能力について、小中学校の校長及び保護者を対象として尋ねたアンケート調査の結果、他者との関係作りの重要性を指摘する回答が多くみられた。
- 本研究を通して、EUのキー・コンピテンシーの考え方や北欧におけるキー・コンピテンシーを軸としたカリキュラム開発の現状等に関する資料を翻訳し、これらの研究資料を紹介するとともに、学校教育で育成すべき児童生徒の資質・能力について、概ねアンケート結果や諸外国の事例等で明らかにすることができた。
- 児童生徒の育成すべき資質・能力の必要性を裏付ける根拠や方法、特に育成の方法については、3カ年という短い期間においては十分明らかにすることはできなかった。

③中期目標との関連性

○本研究は、基礎研究部研究部の活動目標の目標1「中長期的な視点に立った初等中等教育の教育課程の達成と改善に資するための理論的・実証的な調査研究を推進する」に関連し、児童生徒が学校教育において身に付けるべき教育内容や資質・能力を調査・分析することがねらいである。

④本研究に盛り込まれている主なデータ項目

- 児童生徒の資質や能力に関する調査集計結果〈校長編〉
- 児童生徒の資質や能力に関する調査集計結果〈保護者編〉

⑤今後の研究予定

本研究の成果は、4種類の研究成果報告書及び5種類の研究資料に取りまとめたが、3カ年という短い期間で、遠大なテーマに取り組んだため、当初の目的を十分に達成するには至らなかった。しかし、幸い、平成19年度からは始める「学校におけるキャリア教育に関する研究」は、本研究の延長線上にある研究であり、残された課題も含め、得られた膨大な資料をさらに整理し、総合的な考察を加えていきたいと考えている。

⑥キーワード

- (1) 学校教育 (2) 児童生徒 (3) 資質・能力
- (4) キー・コンピテンシー (5) DeSeCo (6) 指導要録
- (7) 教育課程審議会 (8) 学習指導要領

⑦本研究の研究報告書

- 研究資料「教育課程の改善の方針、各教科等の目標、評価の観点等の変遷－教育課程審議会答申、学習指導要領、指導要録(昭和22年～平成15年)」
- 研究資料 EURYDICE (ヨーロッパ教育情報ネットワーク) 編「EUの普通義務教育におけるキー・コンピテンシー(抄訳)」【他3件】
- アメリカ調査研究班中間報告書「アメリカの学校教育と児童生徒の資質・能力」
- 研究成果報告書「児童生徒の資質や能力に関する調査集計結果〈校長編〉」
- 研究成果報告書「児童生徒の資質や能力に関する調査集計結果〈保護者編〉」
- 研究成果報告書「諸外国における学校教育と児童生徒の資質・能力」

⑧関連する先行研究や参考となる研究等

- 国立教育政策研究所「これからの学校の在り方についての調査」
- 国立教育政策研究所「教科等の構成と開発に関する調査研究」